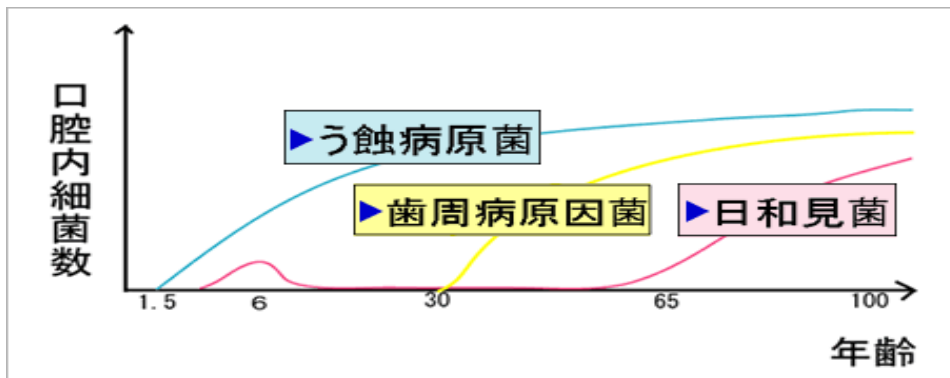


口腔内細菌について ~日和見菌~

口腔内には様々な菌が定着します。加齢による免疫能の低下に伴い日和見菌（ひよりみきん）が増加します。その種類は 350~700 種にのぼると言われています。これらの菌のうち、病原性のあるものは、大きく3つのグループに分けられます。



☆日和見菌について

高齢者では、日常生活活動度の低下による不十分な口腔ケアと、加齢による免疫能の低下などに伴い口腔内日和見菌が増加します。また歯垢中の口腔内日和見菌の増加とともに、肺炎桿菌、黄色ブドウ球菌などの全身疾患原因菌も含まれます。

これらの全身疾患病原菌と、高齢者における発症状況のメカニズムはまだ明らかになっていませんが、これらの菌の増加を防ぎ、リスクを低下させることが全身の健康維持に関係していると考えられます。

口腔内で見られる日和見感染菌

- *Candida albicans* (カンジダ菌)
- *Klebsiella pneumoniae* (肺炎桿菌)
- *Pseudomonas sp.* (緑膿菌も含む)
- *Staphylococcus aureus* : MRSA (メシチリン耐性) : MSSA (メシチリン感受性) (黄色ブドウ球菌)
- *Haemophilus influenzae* (インフルエンザ菌)

など。これらの菌は宿主の免疫力低下に伴い、増殖し病原性を発揮することがあります。このような症状を日和見感染症といいます。

